

【3代目 佐藤会長】

平成 17 (2005)年	2月	○新会長に副会長の佐藤邦男氏が就任し、現体制のまま引継ぐ。	中教審答申						
	4月2日	会誌 No. 137 発行 ○誌名変更「いのちはぐくむ支援教育の展望」 改題は前竹内会長が伏線を敷いてきた課題であったこと、それは特別支援教育の本格実施に向けての時代の変化、要請ともいえる時にあたり、養護学校という枠を超えて、障害のある子どもたちの指導のあり方ノーマライゼーションの趨勢を先取りしていくという合議の上で行った。							
平成 18 (2006)年	2月	○賛助会員のお願い 「ふれあい体験活動の支援」「親と子のやすらぎ活動の助成」「親と教師をつなぐ相談活動」の事業支援を外部の方々の協賛を得て進めようと始めた。個人 10000 円，団体 100000 円を一口として募集。2 年余で途切れる。通信発行。	学校教育法改正						
	11月4日	○JMER チャリティーコンサート 於：豊島区民センター文化ホール(イーストステージいけぶくろ) 「ともだちの輪をひろげよう」1部指笛(斎藤秀ほか指笛楽友会 5 名 2部手笛(森光弘氏) 3部童謡デュオ(坂入恵美・真紀姉妹)(竹内先生の念願でもあった)－満席定員 230 名－ 地域の身障養護障害者団体 100 余名招待，豊島区の後援を得て「障害があるからこそ・みんなといっしょに遊びたい，勉強したい，いっしょの輪をつくって仲よくなりましょう」の主旨で開催。							
平成 19 (2007)年	9月29日	○緊急幹事会 本会の窮状についての訴え 1)財政面で次年度の運転資金が確保できない。 現資金 890 万円余，本年支出発行入れて 803 万円 2)窮状の現状 a 購読者数の減少	特別支援教育の本格的実施（「特殊教育から特別支援教育へ」						
		<table border="1"> <tr> <td>平成 14 年(2002)</td> <td>3976 名</td> </tr> <tr> <td>平成 15 年(2003)</td> <td>3413</td> </tr> <tr> <td>平成 16 年(2004)</td> <td>2867</td> </tr> </table>	平成 14 年(2002)	3976 名	平成 15 年(2003)	3413	平成 16 年(2004)	2867	
平成 14 年(2002)	3976 名								
平成 15 年(2003)	3413								
平成 16 年(2004)	2867								

平成 17 年(2005)	2498
平成 18 年(2006)	1780
平成 19 年(2007)	1280
採算可能な数	3500

b 講座受講生の減少(定員 310 名)

回数	人数	赤字補てん額
26 回	240 名	
27 回	225	250 万円
28 回	197	310
29 回	227	450
30 回	136	700 ?
採算可能な数	223 名	

c 事務所費, 人件費, 他事業費も必要(全経費, 年間資金 1500 万円以上必要)

3) 対策

- ・事務所を置き, インターネット・ホームページを活用して機動性を高めてきた
- ・誌名を変え, 特別支援教育の先行的役割を果たそうとした

4) 事業拡充の見通しに行き詰まりがあり, 季刊誌, 教育講座の中止に踏み切らざるを得なくなった。また今後研究会をどうするか, 改めて協議すると追い込まれたこと。

5) 幹事会としては, 季刊誌 148 号まで発行, 以降休刊。教育講座は受講料を下げた継続する。ホームページを活用した配信を考えながら再建を図る。(評議員三浦・伊東・山本・石部氏に了解を求めた)

平成 19
(2007) 年

- 新構想会議 [11 月 16 日] 第 1 回
[12 月 15 日] 第 2 回
- ・研究会は引き続き存続する—NPO のままスタッフもそのまま残っていただく。
- ・事務所は 3 月に引き払い, 4 月以降練馬区東大泉 6-9-11(旧斎藤秀元宅)におく(3 月末引越無償)
- ・事業・ミニ教育講座年 3・4 回。於: 淑徳短大・重複障害児教育講座・ホームページの通信窓口から発信

障害者権利条約署名

平成 20
(2008) 年

- 季刊誌休刊
148 号誌に休刊の挨拶とこれまでの購読に感謝。

学習指導要領改訂特別支援学校に変わ

	5月17日	○公開研修会（第1回） テーマ：「特別支援教育元年を振り返って」現場の先生方の実践に学ぶ・小野学氏（川崎・久本小），増沢貴宏氏（学芸大附属特別支援学校），初谷和行氏（筑波大附属坂戸高），助言石部，篠原教授 参加30名，会費500円	り，一人ひとりのニーズに応じた指導（個別の教育支援計画を作成，指導にあたること，学習障害児指導の充実，重度重複化への対応，医ケア，共同学習を進めインクルーシブ教育への模索もはじめられた。
	8月9日～10日	○第31回重複障害児教育講座〔於：淑徳短期大学〕 立て直しのため，講座内容を変え，1コース：医療的ケアと健康指導，2コース：静的弛緩誘導法に学ぶ，3コース：リズム運動療法・知覚運動学習・音楽療法，4コース発達障害のある子の理解と指導，とし更に受講料を10000円に引き下げた。基調講演群馬大教授松田直氏「障害の重い子との心の対話」 講座抄本CD作成(1000円)販売 31回(平成20年8月・2008) 受講生 151名 32回(平成21年8月・2009) 受講生 164名(内特別聴講生19名 実質145名) 33回(平成22年8月・2010) 受講生 132名(内特別聴講生17名 実質115名)	
	11月29日	○公開研修会（第2回） 「特別支援教育元年を振り返って」第2弾，本会幹事滝坂信一氏 テーマ：特別支援教育元年を越えて，ユニバーサルデザインの学校を創る 参加15名，会費500円	
平成21(2009)年	2月21日	○「障害の重い子どもの心を開くコミュニケーション指導」 話題提供：都立府中特別支援学校坂口しおり氏 参加16名，会費500円	
	4月25日	○ワーキンググループ立ち上げ〔幹事会〕 研究会の存続を前提にして，どう組織するかワーキンググループを立ち上げ再構築していく。 課題：復刊への道づくり，実践や情報のインターネット配信と相互交信。バックナンバーの活用・講座。 5/17, 6/17, 7/18, 8/22, 9/6 5回会合重ね報告	
	10月4日	○幹事会総会への提案	

		<p>コンセプト研究会組織を継承し、障害のある子もいない子も共に学びあえるインクルーシブな社会環境づくりに貢献する現場発の研究会とする。</p> <p>活動：①講座実施委員会(事務局)②ウェブ構築委員会(清水聡氏中心)を組織する</p> <p>新幹事：大内進氏他 10 名推薦了承，従来幹事 17 名 計 27 名となる</p>	
平成 22 (2010) 年	2 月 20 日	<p>○幹事会報告</p> <p>①第 33 回重複障がい児教育講座—基調講演・野沢和弘氏，他各コース講師，コース担当確認 チラシを見やすく訴えるために A3 版両面写真入り，教材教具展追加</p> <p>②ウェブ構築委報告—いのちはぐくむ支援教育の展望の復刊と会の活性化をウェブベースで行う。早期にウェブサイトをリニューアルし，情報提供を再開する(講座セミナーの配信)</p>	
	9 月 11 日	<p>①インターネットを駆使し，これまでの誌面を PDF 化し電子書籍化し，それをベースに情報・実践の双方向の交流を含め，新しいウェブ方式による運営をしていく。これまで模索してきたウェブ構築委員会へ移行していく。</p> <p>②再生委員長に清水聡氏を据え，第 1 回新生幹事会を平成 22(2010)年 12 月 4 日(土)桐が丘特別支援学校施設内学級で開く。新しいコンセプト・組織・運営方針を協議する。</p> <p>③これまでの事務局は解散する。</p>	